

# 富士宮市地域循環共生圏推進協議会 設立趣意書

我が国は、先進国の中でも例を見ない速さで少子高齢化・人口減少が進み、都市への人口流出により地方の活力が失われつつあります。また、社会においては、これまでの大量生産、大量消費、大量廃棄といった経済活動から持続可能な社会へと変革を迎える中で、環境・社会・経済が複雑に絡み合い、様々な課題が解決されぬまま現在に至っております。

このような課題を解決するためには、各地域がその特性を活かした強みを発揮し、地域ごとに異なる資源が循環する自立・分散型の社会を形成しつつ、それぞれの地域の特性に応じて近隣地域等と地域資源を補完し支え合う「地域循環共生圏」を創造していくことが求められています。

世界遺産富士山に抱かれた富士宮市は、その美しく、豊かで、時に脅威となる自然と共生しながら、水をはじめとする自然の恵みを活かし、農林水産物の生産や観光などの産業振興に繋げてきました。こうした富士山の自然の恵みを、地域資源として次世代に確実に継承するとともに、産業振興において生じた課題や地域資源の新たな活用策について、異分野・異業種の連携を通して環境・社会・経済の統合的な課題解決を図り、持続可能な富士宮型「地域循環共生圏」の構築を目指します。

この取組をローカルビジネスの創出や地域経済の活性化に繋げるとともに、自立分散型社会の基盤を整備することで、将来的に発生が予測されている大地震等にも適応可能な防災力の強化に繋がります。

以上のような構想を実現するため、市民、企業、地元金融機関、NPO、学校、行政が強力なパートナーシップを構築し、それぞれの役割分担に応じて、主体的に取り組むことができる体制づくりを進めていくために富士宮市地域循環共生圏推進協議会を設立します。

また、将来的に山梨県や隣接の市町を含む富士山麓地域や、富士川流域地域との連携を通じて、更に広域的な持続可能な地域づくりの実現も目指します。

令和元年10月11日

発起人

富士宮市長

須藤秀忠